

## 令和5年度 果樹の生育情報 No.2

令和5年6月1日  
農業経営課

### 1 気象概況

4月下旬～5月上旬は低温でしたが、全般的にはやや高温で推移しています。

< 4月の平均気温 >                      < 5月の平均気温 >

岐阜市アメダス	15.7℃ (平年比+1.2℃)	20.1℃ (平年比+0.7℃)
恵那市アメダス	13.1℃ (平年比+1.2℃)	17.6℃ (平年比+0.6℃)
高山市アメダス	11.0℃ (平年比+1.3℃)	15.6℃ (平年比±0℃)

### 2 生育概況

各樹種の生育は表1のとおりです。クリ以外の樹種で開花期が終了しました。

表1 果樹樹種の生育相 (令和5年6月1日時点)

樹種	品種	年度	発芽期	展葉期	開花始期	満開期	開花終期	平年比較
カキ	早秋	本年	3/8	3/23	5/8	5/10	5/13	満開期 6日早い
		前年	3/7	4/2	5/11	5/12	5/17	
		平年	3/9	4/2	5/15	5/16	5/19	
	太秋	本年	3/11	3/27	5/9	5/10	5/13	満開期 6日早い
		前年	3/13	4/6	5/11	5/12	5/14	
		平年	3/15	4/5	5/15	5/16	5/19	
	富有	本年	3/10	3/26	5/11	5/13	5/17	満開期 5日早い
		前年	3/14	4/6	5/13	5/15	5/20	
		平年	3/14	4/5	5/17	5/18	5/22	
ナシ	幸水	本年	3/11	3/30	3/31	4/3	4/11	満開期 7日早い
		前年	3/17	4/8	4/9	4/11	4/15	
		平年	3/13	4/8	4/6	4/10	4/16	
	あきづき	本年	3/10	3/28	3/31	4/3	4/10	満開期 5日早い
		前年	3/15	4/7	4/7	4/10	-	
		平年	3/13	4/7	4/6	4/8	4/15	
クリ	丹沢	本年	3/21	4/24				展葉期 前年並み
		前年	3/30	4/24	-	6/14	-	
		平年	-	-	-	-	-	
	筑波	本年	3/19	4/23				展葉期 前年より1日早い
		前年	3/30	4/24	-	6/10	-	
		平年	-	-	-	-	-	
モモ	白鳳	本年	3/18	4/17	4/13	4/17	4/27	満開期 10日早い
		前年	3/22	4/23	4/21	4/23	4/27	
		平年	3/23	4/27	4/25	4/27	5/3	
	川中島白桃	本年	3/20	4/17	4/13	4/19	4/29	満開期 10日早い
		前年	3/24	4/25	4/21	4/24	4/29	
		平年	3/23	4/28	4/26	4/29	5/6	
リンゴ	つがる	本年	3/24	4/3	4/20	4/24	5/6	満開期 10日早い
		前年	4/1	4/12	4/26	4/28	5/9	
		平年	4/1	4/16	5/1	5/4	5/11	
	ふじ	本年	3/24	4/1	4/20	4/24	5/6	満開期 11日早い
		前年	4/1	4/11	4/26	4/28	5/9	
		平年	4/2	4/15	5/1	5/5	5/11	

※カキ、ナシ：農業技術センター（岐阜市）、モモ、リンゴ：中山間農業研究所本所（飛騨市）、

クリ：中山間農業研究所中津川支所（中津川市）、平年値は過去10年（2013～2022）、クリのみ平年値データは無し

### 3 栽培上の留意点

6～7月は、梅雨入りに伴い長雨・日照不足となります。この時期は新梢伸長期、果実肥大期、樹種によっては翌年の花芽分化期と重なるため、日照不足が続くと、光合成による同化養分の不足により、生理落果を助長します。また、土壌の過湿による根痛み、果実の肥大停滞、病害の発生など様々な障害が発生します。基本技術を徹底し、長雨・日照不足を乗り切りましょう。

#### (1) 着果管理

- ・着果過多は、樹勢低下や果実品質低下（小玉、着色不良、糖度低下）に繋がるので、仕上げ摘果の徹底により適正着果量に努める。
- ・生理落果が多く見られる場合は、樹勢や落果状況を考慮しながら、仕上げ摘果は控えめにし、着果量確保に努める。

#### (2) 新梢管理

- ・枝葉が混み合い受光体勢が悪い場合は、徒長枝の間引き、枝の誘引、枝つり、摘心等による新梢管理を行い、受光体勢を改善する。ただし、徒長枝の間引きを極端に行うと、樹勢低下、2次伸長の発生、果実品質に影響する可能性があるため、樹勢を見ながら慎重に行う。

#### (3) 排水対策

- ・ほ場整備による排水目安は、地表水は4時間以内に、土壌中の過剰水は24時間以内に排出できることである。排水方法は、暗渠を設置し、土壌中の水分停滞を防ぐのが基本である。水田転換園等で、暗渠を設置しないで開園したところでは、明渠を設置し、園地表面に停滞水が残らないようにする。葉の黄変落葉等の症状が現れてからでは手遅れであるので、できる限り速やかに排水対策に努める。
- ・長期の滞水で被害が発生した場合は、土壌表面が乾いてから軽く中耕を行い、土壌中に酸素を供給して、新根の発生を促す。
- ・暗渠、明渠などによる土壌排水対策が困難な場合は、草生栽培を行うことで土壌の物理性の改善（通気性や排水性の改善）に取り組む。

#### (4) 病虫害防除

- ・曇雨天が続くため、病害の発生に注意して、雨間を見て確実に防除を実施する。
- ・軟弱な生育をしている場合は薬害が生じやすいため、希釈倍数を薄くし、薬害に注意する。
- ・病気が発生した葉や果実等は二次伝染源となる場合もあるため、早期に取り除いて圃場外に持ち出し処分する。

#### (5) その他

- ・追肥を行う場合は、窒素過多により過繁茂とならないよう、樹勢や着果量を見ながら調整する（控えめにする）。
- ・草生栽培園では、草丈を短くし園内の通気をよくするとともに、梅雨明け後の乾燥・干ばつにも備える。